

平成 29 年度「愛知県青少年防災キャンプ事例発表会」

平成30年1月31日（水）三の丸庁舎8階大会議室

趣 旨：防災キャンプの成果を普及するため、基調講演や事例発表を行う会を開催する。
参 加 者：83人（市町村行政関係者、学校関係者、防災団体等）

プログラム

13:00 開会（生涯学習課長あいさつ）

13:10 基調講演

「防災の合言葉『命・支え合い・自ら動く』
～子どもたちがつなぐ地域～」

講師：近藤 ひろ子 氏

○JICA（独立行政法人国際協力機構）防災教育担当 専門家
○名古屋港防災センター 防災教育アドバイザー



講演内容

- 防災は特別なものではなく「命」そのもの。そのためには地域ぐるみの防災が必要不可欠。みなさん一人一人が、災害前は「防災実践者・防災発信者」となり、災害中は「率先避難者」、そして災害後は「命・支え合い実践者」になっていただきたい。
- 防災は大人が子供に教え込むだけのものではない。子供自身が学びとっていくもので、防災教育ではなく、「防災学習」を。小・中学校は「命の学習」の場で、20年後に地域の中心となる「自ら動く子供」を育てる場でもある。学校や地域の働きかけで子供たちが動き、子供・地域・学校の働きかけで家庭が動く。それが連携である。
- 地域ぐるみの「命・防災」の第一歩は、「おはよう」と声をかけ合える、顔の見える関係づくりから。防災は、「命が助かる」+「みんなと一緒に生き延びていく」こと。一人一人が「助けられる人」から「助ける人」へ。「してもらう人」から「する人」に。そして、「ついて行く人」から「自ら動く人」へ。子供も大人も地域みんなで知恵を出し合う。「あせらず、かまず、あきらめず」が合言葉。

14:20 シンポジウム 「子どもたちがつなぐ地域防災」

▼事例発表

■長久手市西小学校区防災キャンプ 「地域みんなで学ぼう！西小学校区ワクワク防災キャンプ」
西小学校区まちづくり協議会 葛谷 誠 氏

■田原市校区防災キャンプ 「田原市校区みんな参加の防災キャンプ～学校を核とした防災教育の推進～」
田原市教育委員会学校教育課 共有コーディネーター 藤城 信幸 氏

▼意見交換 コーディネーター 近藤ひろ子 氏

パネリスト 長江 容 氏（長久手市教育委員会学校教育課主事）
葛谷 誠 氏（西小学校区まちづくり協議会）
伴 綾子 氏（田原市教育委員会学校教育課主任）
藤城 信幸 氏（田原市教育委員会共有コーディネーター）
佐藤 のぶ 氏（県防災局防災危機管理課主査）
富田 正美 氏（県教育委員会生涯学習課長）



2市の事例発表内容を基に、「子どもたちがつなぐ地域防災」をテーマとして、主に「学校現場における防災教育」「子供たちを含めた地域連携」という点について、意見交換がなされました。パネリストや参加者から「まちづくりの一環としての地域防災という発想は面白いと思う。」「地域プラットフォームを形成する上で、世代を超えて共通体験をしたり、共通理解することが重要。」「防災キャンプ推進事業を市民主体の運営事業として発展させていきたい。」等、様々な意見が出されました。

最後に、2市の取組について近藤先生より、「一人一人の特技を生かした避難所運営と、今年度、実際に防災キャンプを経験した子供たちの力を来年度以降に生かす発想を持っていただきたい。最初の一步は小さなもので良い。焦らず、継続することで防災の裾野を広げてほしい。」と、総評がありました。

16:00 閉会（生涯学習課主幹あいさつ）

発行 平成30年3月

愛知県教育委員会生涯学習課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 電話 052-954-6749

平成29年度文部科学省委託事業「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」

愛知県青少年防災キャンプ 事業報告書



県教育委員会では、平成24年度から宿泊を伴う避難所体験を組み込んだ防災教育プログラムをモデル事業として実施しています。防災教育を通じて、子供たちの体験活動の機会を作るとともに、学校・家庭・地域・行政が連携することにより、地域の絆（きずな）を構築し、家庭や地域の教育力の向上を目指してきました。

平成29年度は、長久手市、田原市に事業を委託しました。それぞれの地域特性を生かし、避難所運営におけるリーダー育成や被災時に必要とされる地域のつながりを大切にして、学校を核とした子供たちを取り巻く地域の様々な人々が連携・協働したプログラムを作成し、地域全体で防災キャンプを実施しました。

1月には、その成果と課題を県内市町村の担当者や学校関係者、社会教育関係団体やボランティア団体等の方々と共有し、これからの防災教育の在り方を考える事例発表会を開催しました。



長久手市西小学校区防災キャンプ

「地域みんなで学ぼう西小学校区ワクワク防災キャンプ」

平成29年10月21日(土)～22日(日)長久手市立西小学校

趣旨：学校と地域が一体となって避難所運営を実践的に体験する機会を設け、子供を取り巻く地域内の様々な団体・個人の横のつながりを強化してネットワークを作り、それを持続可能な組織とするために、地域の新たな人材を発掘し、地域と学校が一体となって「地域と共にある学校」を目指す。

参加者：178人(西小学校児童67人・保護者9人・教職員14人・地域ボランティア等88人)

日程

10月11/12日	防災キャンプ事前説明会
10月21日	13:30 開会式・シェイクアウト訓練 (学ぶ)
	14:00 わくわく防災体験(学ぶ・食べる・体験する・つながる)バッククッキング・防災グッズ作り(スリッパ、ホイッスル、ポンチョ、紙皿)、竹串タワー作り
	16:30 「いえまですごろく」体験 (学ぶ)
	17:45 心肺蘇生・AED訓練 (体験する)
	18:45 アレルギーについて・夕食 (学ぶ・食べる)
10月22日	19:30 就寝準備・暗闇体験・就寝 (学ぶ・体験する)
	7:00 起床、ラジオ体操、朝食 (食べる)
	8:00 東日本大震災関連のビデオ鑑賞 (学ぶ)
	9:30 ふりかえり活動・意見発表 (学ぶ)
10:30 閉会式・解散 (学ぶ)	
11月19日	防災キャンプ成果報告

ゴミ袋でのポンチョ作り →



心肺蘇生及びAED訓練 ↓



↑ シェイクアウト訓練

○事業成果

地域住民等で構成される「西小学校区まちづくり協議会」(以下「まち協」という。)を中心として、児童・保護者が災害時の避難所となる学校での防災キャンプに取り組んだことで、互いの顔の見える関係が構築され、自分たちができることを考えることにより地域での役割意識を高めることができた。

また、「まち協」役員の人脈を多角的に活用し、多くの地域住民が本事業に参画したことで、地域の人材発掘に加え、地域資源の有効活用の充実、更には地域と学校との繋がりが一層高まった。

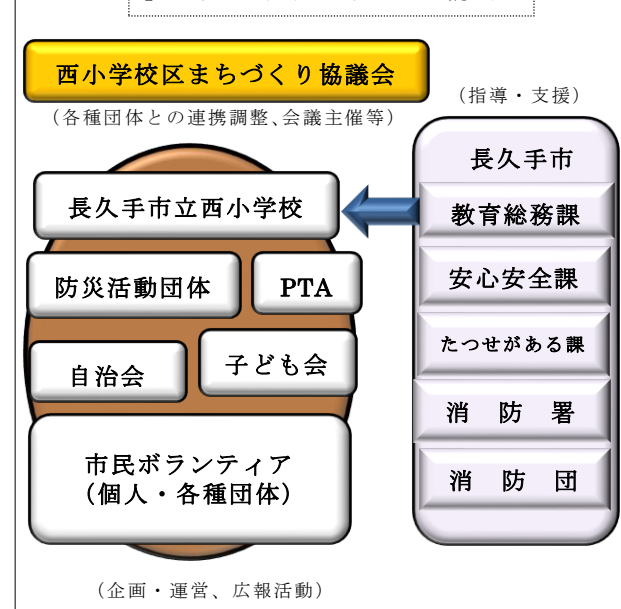
○今後の課題

事業の企画立案は「まち協」中心であったが、参加児童の全体対応は学校職員が担う比重が大きく、今後の継続的な事業実施等を想定した場合、年齢を問わず、より児童の自立性を促すなど、児童をリードできる地域の人材の育成が必要である

○参加者の声

(児童)「いつもと違う生活で最初はいいけど、何日も続くと辛いなあ。」「身近なものを工夫すれば災害の時に役に立つことがわかった。」「アレルギーがあると避難所での食生活が大変。」「(大人)「防災を子供たちに直接指導ができ、将来のためにも良い取組だと思った。」「本当に台風の日に防災訓練ができ、様々なことがままならないという気づきがあった。」

【地域プラットフォームの構成】



田原市校区防災キャンプ

「田原市校区みんな参加の防災キャンプ」～学校を核とした防災教育の推進～

平成29年7月下旬から10月下旬にかけて市内7小学校(各校1泊2日)
(田原東部小・田原南部小・清田小・泉小・若戸小・童浦小・田原中部小)

趣旨：地域・家庭・学校・行政・地域団体等が連携して子供を育む体制を構築することにより、地域内の人と人との絆(きずな)づくりを推進して、地域力の一層の強化を図るとともに、実際の避難所において欠かせない女性リーダーの育成に取り組む。

参加者：7校・計494人(児童272人・保護者62人・教職員46人・ボランティア等114人)

日程(田原東部小学校)7/24(月)～7/25(火)

7月12日	事前学習(田原市の過去の災害等について)
7月24日	15:00 地区放送及び一斉メールで避難指示
	16:00 開会式
	16:15 初期消火訓練及び応急処置訓練 水消火器による的当て消火・三角巾の腕当て吊り・サランラップを用いた包帯作り・担架作り・人員搬送
	18:30 夕食
	19:30 防災講話
7月25日	20:30 避難所宿泊訓練、簡易ベッド作製、就寝
	6:30 起床、ラジオ体操、朝食
	8:00 防災倉庫内の機材紹介及び使用訓練 簡易トイレ、真水ろ過装置
	8:45 非常用持出袋の確認及び意見発表
	9:30 閉会式・解散

サランラップ等を用いた応急処置訓練

訓練用消火器を用いての消火訓練 ↓



真水浄水器の使用訓練 →



○事業成果

市内7小学校で実施した防災キャンプは、防災教育の一部を女性防災活動団体が担うなど、市民団体と連携を図ることで、地域におけるネットワークづくりの強化につなげることができた。

また、地域から子供へ、子供から家庭へ、そしてそれを地域へとつなげる防災教育プログラムのサイクルを構築し、学校を核として、地域の支える人材を増やし、地域の教育力の向上と子供の学びをつなげる取組ができた。

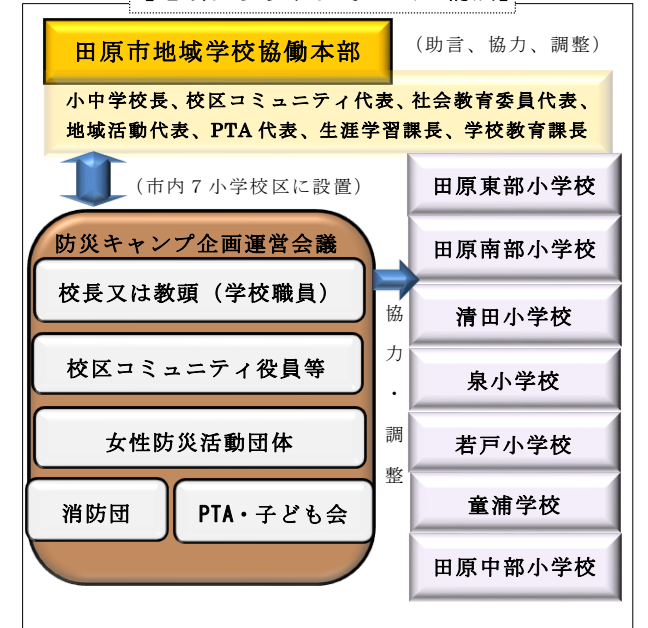
○今後の課題

事前の事業内容の周知不足を感じる。どうしても学校の負担が大きくなることから、それをカバーするために、団体や地域の協力を得る必要があり、そのためには、市民等に初期段階から事業への参加を促すことが大切。

○参加者の声

(児童)「普段から地域の人たちと仲良くして顔を知ってもらうことが大切だとわかった。」「まずは避難して命を守ることが一番大事。それから、みんなのために自分に何が出来るか考えて行動したいと思う。」「(大人)「子供たちに伝えたい内容を見直すきっかけになった。」「訓練は手間だと思っていたが、参加者全体で共通理解ができ活動がスムーズになったので良かった。」

【地域プラットフォームの構成】



成果と課題

平成24年度から始まった防災キャンプ推進事業は「青少年の体験型防災教育」と「地域の絆づくり」を目的に、各地域において多様な団体、行政、学校、家庭が連携をしながら実施してきました。その中で「学校・行政・地域との連携」の必要性が確認される一方、「連携」の難しさが課題として挙がってきました。今年度は、その課題を払拭すべく、過去に防災キャンプを実施し、巨大地震発生時には津波の危険性のある比較的防災意識の高い地域(田原市)と、若い世代の割合が高く、これまでに防災キャンプを実施したことがない内陸部の地域(長久手市)において、宿泊を伴う避難所運営を実施しました。その結果、地域と学校、教育委員会と防災行政が繋がる絶好の機会となったほか、各団体や個人のネットワークが構築され、女性防災リーダー等の地域の新たな人材を発掘することができました。

本事業は、これまでに県内10市23地区で実施してきました。今後も本事業の実施地区を中心に防災教育の裾野を広げ、県下全域で子供を取り巻く、地域の様々な人々が連携・協働した地域プラットフォームづくりを目指していきたく思います。